

学生海外調査研究	
ヨルダンにおける乳幼児の保育、及び子育ての現状に関する現地調査	
小山 祥子	人間発達科学専攻
期間	2012年9月17日(月)～9月26日(水)
場所	ヨルダン・ハシミテ王国
施設	幼稚園5園、乳児院1園(アンマン・マダバの公立私立幼稚園) 家庭2件(マダバ市内在住ムスリム家庭)

1. 海外調査研究の概要

1-1. 本海外調査研究の必要性

本調査研究は、中東イスラーム地域における保育と子育て状況についてその一旦を明らかにするため、研究対象国をヨルダン・ハシミテ共和国(以下、ヨルダンと表記する)とし、当国の保育に関連する基本的情報の収集、実際の保育の内容理解、及び家庭におけるインタビュー調査の事前段階として、子どもがいるムスリム家族とのラポール構築を目的として実施したものである。

本研究テーマを進めていくことは、将来的にイスラームや中東地域に対する異文化理解につながり、間接的には、保育分野の解明を通して、この地域の女性の社会的地位の向上と平和構築に対して、何らかの示唆を見出すことになるのではないかと考える。

1-2. 本海外調査研究の位置づけ

修士論文において、「中東イスラームの子どもの教育—シリア・アラブ共和国を事例として—」の中で、イスラーム文化における教育の成立過程を文献により検証し、シリア・アラブ共和国が近代国家として成立させてきた教育理念・制度・内容を、風土的背景・政治的背景・経済的背景から明らかにしてきた。近年のシリアでは、女性の社会進出を目的として、乳幼児に対する就学前教育の重要性が高まり、幼稚園や保育所の開設が国家をあげて進められている最中であるが、保育者の専門的養成教育や保育内容においていくつかの課題が明らかになっている。

その一方で、中東地域の幼児教育は、日本のODA援助対象国として、シリア周辺国のヨルダン・イエメン・エジプト・チュニジア・モロッコとの連携の中で活発に行われてきている。他国の援助による幼児教育において、イスラーム文化やアラブ民族意識がその背景にあることは無視できず、協力活動において保育が文化であることを認識しながら活動していくことも重要となっている。現在、シリアの保育について解明されたことは、中東地域の他の国々の協力活動にも一部影響を与えている。(現在、シリアは内戦状態のため協力活動は中断している。)

中東地域の国家は、イスラーム国家・アラブ民族国家であることは共通しているものの、それぞれの国が独立後に置かれている状況・立場は異なり、シリアの保育情報が他の中東国家において同じというわけではない。アラブ民族とイスラームの歴史に共通の流れをもつ隣国ヨルダンでさえ、統治においてはまったく異なる。特に、ほとんどのイスラーム・アラブ国家では、パレスチナとイスラエル問題から反米感情が強く米国の影響を拒む国々が多いにもかかわらず、ヨルダンはイスラエルと接し、多くのパレスチナ難民を受け入れている現状から、地域の安定のために米国から多大な援助を受け入れ、今やその援助なしには成り立たず、米国の影響は大きい。

このように、ヨルダンは地政学的にも特殊な事情を抱えているため、教育政策や実際の教育現場においても何らかの異なる状況があるのではないかと考える。実際の状況を解明していくことは大変意義深いであろう。

そのため、博士論文においては、シリアの隣国であるヨルダンにおける幼児教育の現状を明らかにすることをテーマとした。国家が管轄している保育機関を研究対象とするだけでなく、国民個人としてどのような子ども観をもちながら育てているのか、一般家庭の育児の様子にも着目しながら、ヨルダンの幼児教育について明らかにしていく。本調査研究は、その第一段階として位置づけている。

2. 事前研究内容

2-1. ヨルダンの一般概要

ヨルダンは、Hashemite Kingdom of Jordan（ヨルダン・ハシミテ王国）を正式国名とし、1946年にイギリスより独立した。現在の国家元首は1999年に即位したアブドゥッラー2世（イブン・アル・フセイン国王）であり、立憲君主制の国家である。

国土は、北海道とほぼ同じ約8万9000平方キロメートル、その8割以上は砂漠である。人口は、2010年の統計で604万人である。パレスチナ難民、イラク難民、その他の国からの移住者（昨年よりシリアからの難民は登録者だけで2万人を超えている）の増加により人口増加率は2.2%を超え、1961年より7倍以上となり、14歳以下の若年層は35%以上を占めている。全人口の7割以上をパレスチナ系住民が占め、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）によれば、登録難民は2010年の時点で約198万人である。そのため、国民の98%がアラブ民族で、宗教はイスラームスンニー派92%、キリスト教6%、そのほかイスラームシーア派とドルーズ派が2%である。

地政学的に、北はシリア・イラク、南東にサウジアラビア、西にイスラエル・パレスチナ自治区と国境を接し、国際社会の関心や利益に多大な影響を及ぼす位置にある。アラブ諸国の中では穏健派に属し、親欧米的でもあるため、アラブ・イスラームの伝統的文化様式と西欧的文化様式の価値観の融合は、今のところ平和的に行われているという。世界銀行の基準によれば、ヨルダンは低位中所得国に分類され、水資源とエネルギー資源の確保が課題となっている。

経済的概況は、国民一人当たりのGNIは4,340ドル（2010年世銀・日本の約10分の1）、経済成長率は3.1%（2010年）、失業率は12.5%（2010年）、そのうち15歳から24歳までの若年層失業率は、27.1%と深刻な問題となっている。主要産業は、製造業、運輸・通信業、金融業で、輸出品目は、衣料品・燐鉱石・化学肥料・医薬品、輸入品目は、原油・自動車・機械類・電気機器である。2008年の世界的金融危機の影響を受け、経済成長は伸び悩んでいる。都市と地方の所得格差も深刻で、貧困率、失業率の問題を抱え、外国からの資金援助、地域の治安情勢により左右されやすい脆弱な状況である。

気候は、高地・渓谷地帯は地中海性気候、それ以外は砂漠気候で、5月から10月は乾期、雨は一滴も降らず真夏は40度を超える。11月～4月は雨期で場所により降雪があり寒暖の差が激しい。

2-2. ヨルダンの教育行政・教育制度

教育行政は、初等教育と中等教育を教育省が、高等教育を高等教育省が管轄している。パレスチナ難民を対象とする教育は、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）が実施している。

公用語はアラビア語で、英語は小学校1年生から第一外国語として必須科目となっている。

学校教育制度は、初等教育6年間、中等教育4年間、高等教育として短期大学2年間、大学4年間となっている。小学校入学年齢は6歳で、12月31日までに満6歳になる児童は、翌年9月1日に小学校1年生に入学する。学校年度は9月4日から6月19日までで、2学期制をとっている。1学期は9月4日から1月11日まで、2学期は2月6日から6月19日までである。金曜日と土曜日は休校日となっている。

法律上、規定されている義務教育の就学期間は、満6歳～16歳までの10年間で、2012年3月時点、義務教育就学率は98%を超えている。この間の学費は無料であるが、1年間の教科書代（1年生～6年生は3.15JD、7年生～10年生は4.15JD、11年生～12年生は6.15JD、1JD＝約110円）を支払うことになっている。最終学年の12年次にはタウジーヒと呼ばれる全国一斉検定試験があり、その結果によって進学先が決まる。

義務教育の設立機関は、国立59%、私立38%、UNRWA 3%の割合で運営されており、高等教育機関は国立と私立があり、近年は海外留学生も多くなっている。

就学前教育は義務ではないが、4歳～6歳を対象として公立・私立・UNRWAが運営している。

2-3. ヨルダンにおける日本ODA援助動向

日本は、中東地域の和平プロセスの重要性から、技術協力、無償資金協力、円借款など、さまざまな形態により経済支援を実施してきている。中東地域における2国間援助累計額では、エジプトに次いで第二位の被援助国である。2010年度まで、有償資金協力は約2044億円、無償資金協力659億円、技術協力297億円となっている。ヨルダンの主要援助国は、2009年時、第1位米国、2位フランス、3位EU、4位日本、5位ドイツである。

日本政府は、1954年に国交を樹立して以来、皇室と王室間の友好関係を深め、現在も良好な関係にあり、国王は訪日歴10回の親日家といわれている。文化交流としては、アニメが若者に人気があり、その他、武道・日本食・伝統芸能などの日本文化への関心は高く、ヨルダン国内においては日本文化紹介事業や日本語弁論大会が実施されている。

幼児教育分野における援助は、1997年に開始されて以来、2012年6月まで計23名の保育士・幼稚園教諭が派遣され、日本の保育技術による支援活動が行われている。

3. 実地調査報告

3-1. 調査日程と主な視察先

日程	場所	内容	目的
2012/9/17 Mon	成田	移動【EK319】ドバイ経由【EK901】 (22:00成田発 時差-7h)	
2012/9/18 Tue	アンマン	午前/JICAアンマン事務所挨拶 午後/準備作業	調査協力依頼
2012/9/19 Wed	アンマン	実地視察(乳児院/UNRWA内幼稚園) 青年海外協力隊員インタビュー	児童福祉施設における保育情報収集
2012/9/20 Thu	アンマン	実地視察(公立幼稚園/私立幼稚園) 青年海外協力隊員インタビュー	都市部の幼児教育の実施状況把握
2012/9/21 Fri	ペトラ	午前/移動 午後/遊牧民視察	遊牧民の生活観察と情報収集
2012/9/22 Sat	ペトラ	午前/遊牧民視察 午後/移動	遊牧民の生活観察と情報収集
2012/9/23 Sun	マダバ	午前/実地視察(郊外公立幼稚園) 午後/ムスリム家庭訪問・青年海外協力隊員インタビュー	地方郊外にある幼稚園の実施状況把握 ムスリム家庭挨拶
2012/9/24 Mon	マダバ	午前/実地視察(市内公立幼稚園) 午後/ムスリム家庭訪問(パレスチナ難民キャンプ地内居住)	地方都市の幼稚園の実施状況把握 ムスリム家庭挨拶
2012/9/25 Tue	アンマン	午前/移動・教育省訪問・JICA事務所挨拶・帰国準備 午後/移動	教育関係資料収集 関係者へのお礼挨拶
2012/9/26 Wed	アンマン 成田	移動【EK904】(17:15発) ドバイ経由【EK318】(17:35成田着)	帰国

3-2. 視察先都市の概要

3-2-1. アンマン

アンマンは、およそ9千年前に作られたとされ、以来さまざまな勢力の興亡により繁栄と衰退を繰り返してきた。1929年にオスマン帝国からトランス・ヨルダンとして独立した際に首都となり、その後の度重なる中東戦争とイスラエル建国により、多くのパレスチナ人が流入したため人口が急激に増加し、市内各地にパレスチナ難民キャンプができています。1980年代にはレバノン内戦からの避難民、1990年からの湾岸戦争や2003年からのイラク戦争による避難民、そして現在のシリア内戦により、避難民が流入し、常に不安定な状況にある。

地形としては、ヨルダン川東岸から隆起した山地とアラビア半島方向へ続く土漠の境目にあることから、降雨によって多くの丘が築かれ、起伏の多い街となっている。市内はダウントウンを中心に丘の稜線に沿って幹線道路が四方に伸び、官庁・文化施設・商業地区・高級住宅地区・アルメニア人地区・パレスチナ難民地区など特徴的な街並みが広がっている。

3-2-2. マダバ

アンマンから南へ約30kmに位置する宗教上意味深い町である。モーゼの脱エジプトに際し、「約束の地」と指さしたネボ山、イエスが洗礼を受けたとされるバプティズム・サイト、市内には殉教者教会、聖ジョージ教会、聖処女教会、12使徒教会など多くのキリスト教やユダヤ教にまつわる建物がある。かつて、アフリカ大陸から連れてこられた奴隷が住んでいた地ともされ、マダバ郊外の村には肌の色が異なる住民が多い。

3-2-3. ペトラ

アンマンから南へ約235km下ったところにあるナバタイ人がつくったとされる古代都市である。2000年以上前からベドウィン(遊牧民)やナバタイ人によって栄え、一時秘境としてベドウィンによって隠されていたが、スイス人探検家ヨハン・ルートヴィッヒ・ブルクハルトが発見して以来、ペトラ遺跡として知られ、現在はユネスコ世界遺産となっている。岩肌をくりぬいて築いた建造物は圧巻で、周辺には今も多くベドウィンが住んでいる地域である。

3-3. 視察先の幼稚園・乳児院の状況

3-3-1. シメサーニ幼稚園(アンマン市内公立幼稚園)

女子小学校の一角にある幼児クラスである。教室は、幼児向けの円卓と椅子が並び、壁にそって遊び

のコーナーも作られている。視察時、丸くなって出席確認が行われていた。そのあと「五感と五官」をテーマとした授業が始まり、塩、砂糖、レモンなどの実物を使って実際に嘗めて味を確認しながら、しょっぱい、あまい、すっぱいなどのアラビア語を学んでいた。その後、粘土遊びや描画活動など教師の指示する遊びを行い、午前中の中食の時間となっていた。

3-3-2. ワッハベヒ タマーリ幼稚園（アンマン市内私立幼稚園）

キリスト教系の私立幼稚園である。1995年に設立され、現在365名の園児が在籍する幼稚園である。年間の保育料は1800JDで、宗教や民族を問わずだれでも入園可能ということであるが、明らかに高所得者と思われる園児が通っている。5歳児のみ10クラス、1クラス35名定員で、担任教師もいるが、それ以外に体操教師、アラビア語教師、英語教師、パソコン教師など各専門分野の教員を配置し、時間割に沿って授業が行われている。備品、物品ともに完璧と思われるほど恵まれている環境にある幼稚園である。

3-3-3. ヒッティーン難民キャンプ幼稚園（アンマン市郊外パレスチナ難民救済事業機構管轄）

パレスチナ難民居住地区内にある幼稚園である。5才児8クラス、4歳児1クラス（1クラス35名定員）、教員10名で運営されている。園長先生は2007年来日し、JICAの幼児教育研修を受けている。5才児はアラビア語、英語、算数を中心とした時間割が組まれ、幼稚園児向けのワークブックを使用し授業が行われている。担任は、一人ひとりに手書きで文字や数字の書き取りの宿題を毎日出すことが課されており、その間、幼児は静かに待っているか、担任が指定する遊びをしている。保育室には、幼児用の机と椅子、遊具が整備されている。

副園長の話によれば、担任は、出席表による出欠確認と保育日誌を毎日書くよう義務付けられているとのことで、先月アンマン市教育局の監査により、階段の危険性を指摘され、監視カメラを設置することで幼稚園施設として認可されたという。

3-3-4. ハッタビエ幼稚園（マダバ市郊外公立幼稚園）

女子学校（小学3年生～10年生）の一教室に設置された幼稚園である。5歳～6歳の男児と女児計25名が在籍する。担当教師は女性教師1名、保育時間は午前7：00～12：30で、8：00の朝礼時には全園児が登園し、アラビア語、算数、英語、クルアーンの授業が行われている。視察時、英語のアルファベットの貼り絵や粘土を使用して文字指導が行われていた。保育室内には幼児用パソコンが一台備えられ、DVDを使用してアラビア語フスハ（共通語）を学んだり、音楽を聴いて表現遊びをしたりしている。外からアザーン（お祈りの呼びかけ）が流れてくると、園児たちは自ら別室に行き、クルアーンを唱えて祈り始める姿が見られた。

3-3-5. アッサシーエ幼稚園（マダバ市内公立幼稚園）

マダバ市中心部に立地し、2011年9月に新設されたばかりの新しい学校施設で、女子学校（小学3年生～6年生）の中に2クラスの幼児クラスが開設されている。担任教師は私立幼稚園10年の経験を持ち、本人は制作が得意ということである。視察時、園児たちは円形に集まり、クルアーンの復唱、出席確認、今日の日付、天気などの内容を含む朝の会を行っていた。その後、アラビア文字の授業となり、本日学ぶ文字を指でなぞり、読みや文字カードを使って何度か復唱し、最後に文字探しゲームを行い、子どもたちも楽しそうに学んでいた。9月からシリア難民の園児が数名入園したとのことである。アラビア語のアンミーヤ（方言）は、シリアとヨルダンに似ているため、それほどの障害もなく溶け込んでいるという。

3-3-6. アル・フセイン乳児院（アンマン市内王立施設）

若年出産、虐待、犯罪等の理由により養育できない保護者にかわって、0歳から5歳までの乳幼児を養育している。施設、備品、遊具すべて国からの援助で整備され、乳児3名に対し保育士1名の対応で人員配置されている。視察時、幼児は隣接されている幼稚園に通園のため不在、施設内には0歳～3歳までの乳幼児が保育士の世話を受けながら過ごしていた。生後2週間～3か月以内の乳児は、一人一つのベッドにスウォドリングの姿で寝ていた。おむつはすべて紙おむつを使用、粉ミルク等も豊富にそろえられている。保育士の一人は、「アブドゥッラー国王とラーニア女王のおかげで、この子どもたちは元気に育っている。国王一家も時々ここへ足を運んで見に来てくれる」と王族を褒め称えていた。国王には、フセイン王子（1994年生）、イマーン王女（1996年生）、サルマ王女（2000年生）、ハーシム王子（2005年生）の4人の子どもがおり、入口には一家の写真が掲げられている。国王の写真は、どこの保育施設の中でも掲げられていた。

4. 所見と今後の課題

ヨルダンの保育関連施設の視察によって明らかになったことの一つに、幼稚園は就学前の教育の場として位置づけられていることである。どの園も時間割に従って、アラビア文字や数字、英語、算数の授業が行われていた。二点目は、資金と物品の双方において米国による援助が多であったということである。

ある。どこの施設においても、「US AID」の表示があり、米国の影響力が強いことは明らかである。園によって、教材や遊具の量に多少の違いは見られるが、概ね物的環境はそろっている。三点目は、人的環境についてである。シリアもそうであったがヨルダンにおいても保育職を担うのは女性であった。女性が働く貴重な場として認識されていることもわかった。筆者が一女性研究者として、イスラームの女性社会に入りやすいことも実感した。

一方、本調査においては、現地JICA事務所の担当職員、及び現地の協力隊員に情報提供の協力を仰ぎ、貴重な資料の提供と現地視察を実施することができたが、それらの資料だけでは保育の解明は困難であることがわかった。教育省での情報収集も試みたが、期間内の調査では必要な資料を入手することはできなかった。最新かつ客観的情報の入手が課題であるが、教育省幼児教育部の担当者は来日経験もあり、最終日に今後につながる再会ができたことは大変心強い。子どものいる一般家庭への訪問は、協力隊の紹介により2件に訪問させていただき、家庭における両親と子どもの様子を垣間見、興味深い手ごたえを感じているが、特定の家庭における調査がどこまで可能であるのか、難しい側面があることもわかり、再度検討していく必要性を感じている。

今後は、本調査で入手した保育関連施設の情報を整理し、関連文書を翻訳した上で、明らかになったことを順次、保育学会、国際幼児教育学会、比較教育学会等で公表していく予定である。

【謝辞】

本調査に対し、お茶の水女子大学大学院の学生海外調査研究として採択していただき、ご支援をいただいたことに審査員およびスタッフの方々へ感謝申し上げます。また隣国シリアの情勢が悪化していく中で、常に最新情報を寄せてくださり、調査にご理解とご協力をいただいたヨルダンJICA事務所の職員と協力隊員、そして現地ヨルダン側関係者の皆様には、感謝の限りです。何よりも安全に調査が実施できたことも現地の人のおかげに尽きます。国内においては、いつも心強い励ましと研究への道筋を立ててくださる指導教官小玉亮子先生に心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- Tmim Ansary, (2009) *Destiny Disrupted*, Public Affairs. (小沢千重子訳 2011『イスラームからみた「世界史」』紀伊国屋書店)
- 立山良司(2002)「国際情勢ベーシックシリーズ③中東第3版」自由国民社
- 加納弘勝(1992)「中東イスラーム世界の社会学—第三世界における都市と文化と社会統合」有信堂高文社
- 日本国外務省 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/jordan/> 2012.5 現在 (2012/10/22)
- 国際協力機構(JICA) <http://www.jica.go.jp/jordan/index.html>, (2012/10/22)
- <http://www.jica.go.jp/jordan/office/others/situation.html> (2012/10/22)
- 国連難民高等弁務官 UNHCR 協会 http://www.japanforunhcr.org/act/a_mena_syria_2012 (2012/10/22)
- 国際交流基金 <http://www.jpf.go.jp/j/japanese/survey/country/2011/jordan.html> (2012/10/22)
- UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) <http://www.unrwa.org/etemplate.php?id=66> (2012/10/22)
- The World Bank (世界銀行) <http://data.worldbank.org/indicator/NY.GNP.PCAP.CD> (2012/10/22)

こやま しょうこ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻

指導教員によるコメント

小山氏の今回のヨルダンにおける幼児教育に関する調査は、短期間でありながら、精力的に現地視察をした非常に貴重なものであり、今後の研究にとって大きな収穫を得たものであることが伺える。現状の中東地域の状況、特にシリアとその周辺諸国における政治的・社会的情勢は困難な状況下にあるが、そのような中、安全が確認されているとはいえ、シリアの隣国ヨルダンでの調査を許可して下さった審査員の皆様に心からお礼を申し上げたいとおもう。

日本において、ともすれば、中東の状況や中東で生きる女性や子どもの生活は遠いものとしてとらえられがちであるが、しかしながら、今日、中東を理解せずには、グローバルな問題は考えられないのは自明のことである。そのような中であって、お茶の水女子大学はアフガニスタンをはじめ、途上国やアラブ地域に積極的に調査・研究・協力を行ってきた。小山さんの研究は、まさにこの一翼を担うものとして、その成果が期待される。

(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 (人間科学系)・小玉 亮子)